

〈2022 年度トリジューク〉

鹿野学園と青谷高校での実践を核とし、その知見を他事業で活かしている。

受け入れの幅も広がる一方、実践者が抱える梗塞感や人材不足という課題も深刻化してきた。

■鳥取市立鹿野学園「表驚科（あらわしか）・表現ワークショップ」【2022 年度 106 時数】

鳥の劇場の俳優や演出家が、各学年の担当教員と連携して実施。青字は外部講師を鳥劇がコーディネート。

P 事前打ち合わせ→D (1 日目) WS→看取りの共有→C (2 日目) 省察活動→A もっとやってみる活動。

1 年生 26 人	表 現	おしえて りレー (6 月)	にんじゃ がっこう 1 (7 月)	ジェスチャ ーゲーム！ (12 月)	にんじゃが っこう 2 (1 月) 2 日目コロナ中止	ユニットにしない。 1 校時ずつ 2 日連続。			8→ 7
2 年生 24 人	に 触	インタビュ ーりレー (6 月)	にんじゃ がっこう 1 (7 月)	ジェスチャ ーゲーム！ (12 月)	にんじゃが っこう 2 (1 月) 2 日目コロナ中止				8→ 7
3 年生 17 人	れ る	むかしばなし メパ-チェンジ (6 月)	はかせの 大発明 (12 月)	オノマトペ ばなし (1 月)	3 年生以上は 1 ユニット=2 校時×2 日の 4 校時分。				12
4 年生 33 人	表 現 に	短い詩から お芝居 1 (6 月)	短い詩から お芝居 2 (7 月)	動きを楽し もう！ (9 月)	オリジナル ダンス！ (11 月)	映像 WS (11 月)	メディア WS-(2)-コ ロナ中止	24 → 20	
5 年生 25 人	慣 れ る	こわれた千 の楽器 1 (6 月)	こわれた千 の楽器 2 (7 月)	絵の中の○ ○さんと (12 月)	自分が監督 自分が主役 (1 月)				16
6 年生 22 人	表 現	ちょっとだ け台本 (6 月)	やぎ博士と 踊 MAKULU (12 月)	見立てて 演じよう (1 月)					12
7 年生 32 人	を	脳内会議 by 日影劇団 (6 月)	風景 by 加米良萬 (7 月)	ダンス WS (11 月)	Pocket2 映 像 WS (11 月)	メディア WS-(2)-コ ロナ中止		20 → 16	
8 年生 21 人	開 く	裏ももたろ う (6 月)	カタルタ 情熱大陸 (12 月)					8	
9 年生 19 人	広 げ る	思い出演劇 (6 月)	メディア WS (9 月)					8	
									106



1～3 年（後藤・中垣）楽しく活動、4・5 年（中島）演劇のコツ、6 年以上（齊藤）自分たちで活用、がキーワード。

今年は、8 年生の職場体験 2 名が、鳥劇とともに事前打ち合わせから参加し WS サポートメンバーとして活動。WS のねらいや手法、何を大切にしているかなど学び、その後の 8 年生対象 WS では、自分たちでアイスブレイクを進行した。

■鳥取県立青谷高校 3 年生「地域環境芸術」【2022 年度 8 名・16 時数（2 校時×8 日）】

※10 回予定していたが、感染症と大雪で 2 回中止。

社会では他者と合意形成しながら仕事を進めていく。その時に役立てるよう自他理解や協働する力を育むことが目的。俳優の安田と中川、音楽家の武中を基本講師とし、自分を出せる雰囲気をつくっていく。その上で、写真家の水本俊也氏との授業、演出家による戯曲 WS で専門家とも活動。じゅう劇場 WS では、障がいのある俳優たちとも気負わず交流する姿が見られた。



コミュニケーション&身体	音楽	演劇・地域	交流・社会
カタルタ WS (6 月) 身体で表現 (6 月)	リズムゲーム (6 月) メロディづくり (12 月)	劇場で現地学習 (9 月) 戯曲 WS (12 月)	思い出を劇に (1 月) じゅう劇場 WS (1 月)

■他の関連事業



- ・〈藝大音楽 WS〉を瑞穂小、逢坂小、鹿野学園で実施。
- ・藝大の演奏家によるミニ演奏会を企画運営（藤木）。
- ・三朝中学校 3 年生〈人権劇〉づくりに向けた台本 WS や指導助言（中川）。
- ・逢坂小学校〈全校表現〉劇づくり支援。
- ・倉吉西高「フィールドワークイン鳥取研修」受け入れ（中川）。
- ・倉吉北高「職場見学」受け入れ。『三人姉妹』観劇とインタビュー。
- ・修学旅行受け入れ。〈観劇&WS〉加茂中、附属中、津ノ井小、倉吉東高。など。

■調査研究

・青学苅宿ゼミ【鳥の劇場が鹿野学園で行う WS の効果と、実践者の考え方】

→（報告書より一部紹介）5 年生と 8 年生、その WS 実践者である鳥の劇場の劇団員 2 名。研究の結果、5 年生では「協働性」「自己効力感」「メタ認知」に、8 年生では「自己効力感」において信頼性と有意性が確認された。実践者 2 名の考え方の構造を分析した結果、【共通価値】と【鳥の劇場スタイル】によって活動が好循環する表面的な『上位構造』と、〈現場〉が梗塞部位となり、〈トップ〉と〈現場〉の循環が止まりうる危険性がある『下位構造』が明らかになった。

・青学宮川ゼミ【オンラインコミュニティ試行実験】～鳥の劇場を活性化させるためには

→（報告書より一部紹介）web3（DAO）の鹿野町のまちづくり事業への有用性についての検証。県内外のサポーター含め 30 名が参加した。検証の結果、間接的に鹿野町の関係人口創出、鳥の劇場の人手不足の解消ならびに活動の幅を広げることに対して十分に可能性があると考えられる。web3 はまだ新しい概念であるため、認知度が低く、このようなオンラインコミュニティでの活動に慣れず、苦手意識を持たれる方が多い印象を受けた。

・青学高村ゼミ【数理ワークショップ】～『体験から解明へ』手を動かしながら数学を楽しく学べる WS

鹿野学園 4 年生 7 年生の算数・数学科での授業を中川が見学。表驚科と教科教育のつなげ方、手を使いながら自分たちで磨き合っていくやり方など、非認知能力と認知能力の融合という課題解決に向け手がかりとしていく。

・その他研究協力依頼など

大阪公立大学経済学部「地方振興を含む演劇の地域への定着」、静岡文化芸術大学文化政策学部「文化施設に拠点を持つ実演芸術団体における知的・精神障害者の文化芸術の享受や創造の機会の創出の実現プロセス」、愛媛大学教育学部「有効活用されている廃校」など。近年大学からの依頼が増えている。